

## 国語（国語表現Ⅰ）学習指導案

岡山県立久世高等学校 家政科 3年3組

平成24年6月13日（水） 第6校時 使用教室（3－3HR） 指導者 福井由左子

単元 (題材)	1 ことばに変える ステップ3 絵をことばにする
目 標	事柄をことばに変える体験をし、ことばを正確に効率よく扱う工夫を学び、学校生活や社会生活に必要とされる最も基本的な技術を練習する。
指 導 計 画	ことばに変える 第一次 速く正確に書き写す（3時間） 第二次 メモを取る・メモで伝える（2時間） 第三次 絵をことばにする（3時間） 1時 平面をことばに変える 2時 空間をことばに変える1 3時 空間をことばに変える2・・・本時
指導上 の立場	入学時より国語の時間には漢字学習をしている。また、1年次に国語総合、2年次に現代文を学び、基本的な読解に取り組んできた。国語表現Ⅰでは、体験的な活動を通して、社会人として必要な基礎知識とコミュニケーション能力を身につけさせたいと考えている。

### 本 時 案

本時の 目 標	空間をことばで説明する際には、規準となるものを示し、説明順序を工夫する必要があることを学ぶ。本校の特定の場所をことばで説明できるようになる。		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
漢字学習 (15分)	漢字を練習して、覚える。 漢字小テストを解く。 前回の誤りを確認する。	期間巡視し、質問を受け、助言する。 5回書き、貼付の指示。	
導 入 (5分)	部屋の間取りを伝える文章を見直し、改善する。	前回のプリントを返却し、ポイントを挙げる。	
展 開 (25分)	学校の正門にいる人に、①体育館、②進路指導室、③視聴覚教室を、ことばだけで案内する文章を考える。 生徒が作った文例を鑑賞させ、良い点問題点を考える。 改善点を把握する。 ①距離の目安 ②建物の特徴	場所を伝える文章を記入するプリントを配付。 指名して発表させる。 想像できるか、たどりつけそうか、誤って進まないか段階に応じた支援をする。	主体的に取り組んでいるか。【意欲・関心】  プリント提出後にそれぞれの文章を評価。誤って進まないか。相手に親切な案内か。【書く】
まとめ (5分)	防災意識を持つ。 社会における自分の役割を考える。	こちら高校市民課防災係について紹介する。 本校が地域の避難場所であることを教える。	
参 考 資 料			

## 国語（国語表現Ⅰ）学習指導報告書

岡山県立久世高等学校 家政科 3年3組

報告書作成日：平成24年6月20日（水）

指導者 福井由左子

生徒の様子 （ 関 心 ） （ 意 欲 ） （ 態 度 ）	1、2年次には文章を読み解く学習が多かったため、国語表現Ⅰの学び始めはとまどいがあったようである。書き写しや聞き取り、メモをとり相手に情報を伝えるなどの学習を通して、徐々に体験的な活動にも慣れつつある。「今日は何をするのか」と毎回の学習内容に興味は持っている。ただし、表現技術の習得を目指す意欲はあまり感じられない。なんとかして生活に必要なコミュニケーション能力を身につけさせたい。
自己評価	（1）本時の目標が実現できていたか ・部屋の間取りを伝える文章作成の振り返りをしたため、大まかな位置を初めに言うなどの説明順序に関する生徒意見もすぐに出た。 ・やりとりをする中で、進む距離の目安、建物や部屋の特徴、何番目かなどの説明の仕方を考えて、相手を不安にさせない工夫も学習できたと思う。
自己評価	（2）生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習過程となっていたか ・身近な場所であったため、全員が真剣に考えていた。 ・積極的な質問が出た。
自己評価	（3）問題解決の指導過程に沿った支援がなされていたか ・説明しやすい場所から取り組ませた。 ・「事務室で聞けばよい。」という意見にも、「要領がよく的確。」と一旦認めた。他クラスで出た「連れて行く。」という意見を紹介し、「親切で理想的である。」と実生活の中での評価をしつつ、今回はことばだけで場所を説明するのが目標であることを再確認させた。 ・ことば遣いなどについては回収後添削をした。
自己評価	（4）教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか ・空間をことばに変えて、場所説明と道案内を行う実践的な課題に取り組めた。
自己評価	（5）「防災」に関する課題を把握した授業であったか ・学校の取組みについて紹介できた。 ・社会で果たすべき高校生の役割が大きいことは理解してくれたと思う。
自己評価	（6）今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか ・働く場でも、他人に説明や案内を行う機会があることを想起させた。 ・相手を思いやる気持ちを引き続き教えたいと思う。
成果と課題	生徒は楽しんで学習に取り組めたと思うが、他の場面にも応用し、実際の生活で活用できるかどうかは難しい。授業での発言だけでなく、普段の態度やことば遣いについても、指導が必要である。生徒の中には自分勝手なふるまいが多い者もあり、相手を思いやる前に、相手がどう思うかを教える必要がある。日常生活での実践を目指したい。さらに、「防災」については、学校の取組みの一部を理解する段階にとどまっているものの、自分自身に何ができるかを考えられる生徒を育てたい。

## 数学科（数学A）学習指導案

岡山県立真庭高等学校 生物生産科 2年1組

平成24年6月13日（水） 第6校時 使用教室（2-1 HR） 指導者 重末 典男

単元 (題材)	2章 確率 1節 確率とその基本性質
目標	具体的な事象の考察などを通して、確率について理解し、不確定な事象を数量的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。
指導 計画	1. 事象と確率（1）・・・ 6時間（本時：2時間目） 2. 事象と確率（2）・・・ 7時間 3. 独立な試行と確率・・・ 1時間 4. 反復試行の確率・・・ 2時間 5. 期待値・・・ 2時間
指導上 の立場	数学に苦手意識を持っている生徒が多く、基礎的な計算ができない生徒も少なくない。分数で表す確率の意味について理解しにくい生徒も多数在籍している。本時はさいころを用い、確率の意味を理解し数学的に考察し処理できるようにする。

### 本 時 案

本時の 目標	確率とは何かに気付く。【数学的な見方や考え方】 地震発生確率についても考えさせ、防災に関する基本的な理解を数学的に考察し処理しようとする。【関心・意欲・態度】		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎計算練習</li> <li>・前時の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題を解説し、練習問題が解けるようにする。</li> <li>・確率とは何か発問する。</li> </ul>	前時の復習から、今回の目標につなげる。
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さいころを1個投げたとき1の目が出る確率は<math>1/6</math>」とはどういう意味か考えさせる。</li> <li>・さいころを6回投げる。</li> <li>・さいころ60回×2セット投げて実験する。</li> <li>・クラス全員のデータを集める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問し、発言を促す。</li> <li>・予測と結果が違うことを確認させる。</li> <li>・実験の意味を理解させる。</li> <li>・予測通りになるか確認させる。</li> <li>・大数の法則について説明し、<math>1/6</math>とは何か気付かせる。</li> </ul>	実験の意味を理解し、実験に参加する。【関心・意欲・態度】  大数の法則について理解する。【数学的な見方や考え方】
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ・感想を書く。</li> <li>・地震発生確率についても考え、確率の考え方が違うことに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生確率について解説し、確率にも様々な考え方があることに気づかせる。</li> </ul>	まとめ・感想が書ける。【表現・処理】確率についてより深く考えることができる。【関心・意欲・態度】
参 考 資 料	長期的な地震発生確率の評価方法について（地震調査委員会 H13. 6） 山陽新聞(H24. 2. 9)		

## 数学科（数学A）学習指導報告書

岡山県立真庭高等学校 生物生産科 2年1組

報告書作成日：平成24年6月19日（火）

指導者 重末 典男

生徒の様子 （ 関 心 意 態 ）	確率とは何かを真剣に考えることができた。意欲的に実験に参加し、最後にはデータを一つにまとめることで理解が深まり、関心を示す生徒も少なくなかった。生徒の感想からも確率とは何か考えることについては目標が達成されたされたことが伺えた。地震の発生確率については、理論が飛躍しすぎていて、興味をいだきにくいようだった。
自己評価	<p>（1）本時の目標が実現できていたか 確率とは何かに気付くことについては目標を達成できた。感想文もよく書けていた。 地震の発生確率については、理解が乏しく防災に関する基本的な理解を数学的に考察し処理しようとするところまでもっていけなかった。</p> <p>（2）生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習過程となっていたか さいころを120回投げることで集中し、主体的に授業に参加できていた。また、実験中には様々な意見が出てきた。数学的な見方や考え方を発表する生徒も少なくなかった。このような良い学習の雰囲気地震の発生確率から防災に関する理解に結びつけることができなかった。</p> <p>（3）問題解決の指導過程に沿った支援がなされていたか ワークシートを活用することと、机間指導を大切にすることができた。</p> <p>（4）教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか 単元とも合致し、教科の特性を生かす内容ではあったが、指導方法が適切ではなかった。単元の終わりなどに、別の指導方法で実施してもよかった。</p> <p>（5）「防災」に関する課題を把握した授業であったか 結論としては理解している生徒もいたが、本質を理解し、防災につなげるには難しかった。</p> <p>（6）今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか さいころの実験は今後につながるよい実験であった。防災活動に生かせる内容にはならなかった。</p>
成果と課題	<p>さいころを実際に投げることで、大数の法則を体感し理解することができた。また、生徒の主体的な活動を促すことができた。全員のデータを集めてクラスのデータをとることで、全生徒が積極的に授業に参加することができた。</p> <p>地震の発生確率から防災に関する基本的な理解を数学的に考察し処理できるようにすることは難しかった。別の単元や別のやり方で実施したらよかった。</p>

## 社会（地理）学習指導案

岡山県立真庭高等学校 食品科学科 1年2組

平成24年10月5日（金） 第4校時 使用教室（1-2HR） 指導者 河本亮二

単元 (題材)	地球内部の熱と力のできる地形
目標	世界の大地形の分布とその成因について理解する。
指導 計画	2章 生活に影響を及ぼす地形（3時間） <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球内部の熱と力のできる地形 （1時間一本時）</li> <li>・外部の作用によってつくられた地形 （2時間）</li> </ul>
指導上 の立場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界に多様性をもたらす自然や民族・宗教・歴史・産業など様々な要素の中の地形について学習し、それにもとづいて特色ある生活・文化がはぐくまれている各地の様子を理解させる。</li> <li>・プレートの境界と地震や火山の多い場所、けわしい山脈の分布について考察させ、我々が地震の多い地域で生活していることを自覚させる。</li> <li>・東日本大震災や近年の大きな地震の話をし、今後心配される南海トラフ巨大地震に対する意識の高揚を図る。</li> <li>・地震や火山のもたらす功罪について、考察させる。</li> </ul>

## 本 時 案

本時の 目標	世界の大地形の分布とその成因について理解する。		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
導入 (10分)	授業の流れを確認する。 鳥取県西部地震の体験談等を聞く。	本時の授業内容への関心を高める体験談等を話す。	
展開 (分)	プレートテクトニクス理論を理解する。 険しい山脈の分布や地震・火山の多い場所を確認し、黒板の地図に位置を示す。 地震の多い場所に日本があることを理解する。 南海トラフ地震の想定を知る。 地震や火山の功罪を考察する。	机間巡視し、世界地図の見方をアドバイスする。  新聞を活用し、最新の情報を伝達する。	地震や火山はプレート移動の影響で発生すること理解させる。  防災意識の大切さを感じさせる。
まとめ (分)	防災意識を持つ。 自然条件が我々の生活に影響を及ぼしていることを確認する。	授業中の避難の仕方を発表させ、防災への意識の高揚をはかる。	ノートへの記述が適切にされているか確認する。 地震に対し、共存のあり方を考察させる。
参 考 資 料	南海トラフ地震の被害想定に関する新聞記事		

## 社会（地理）学習指導報告書

岡山県立真庭高等学校 食品科学科 1年2組

平成24年10月5日（金） 第4校時 使用教室（1-2HR） 指導者 河本亮二

生徒の様子 （関心 意欲 態度）	昨年 <small>の</small> 東日本大震災を間近に見聞きしており、地震についてはかなり関心度が高い。なぜ、あのような地震が生じるのか、地震がどのような被害をもたらすか、今後どのような地震が生じる可能性があるか等、疑問を持ちながら理解しようとする積極的な態度が見られた。
自己評価	<p>（1）本時の目標が実現できていたか プレートテクトニクス理論について、大まかな理解はできたようだが、地図の見方等の基礎的な知識が習得できていない生徒がおり、個人指導が必要となっている。</p> <p>（2）生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習過程となっていたか 板書や口頭での発表を取り入れているが、教師からの説明が多く、受け身的になっている場面が多い。</p> <p>（3）問題解決の指導過程に沿った支援がなされていたか グループ活動を用いるなどすれば、生徒相互の支援がなされ全体的に理解度が進んだように感じる。</p> <p>（4）教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか 地図等を使い、地理の特性を生かした授業が進められた。</p> <p>（5）「防災」に関する課題を把握した授業であったか 地理の授業では、年間を通し様々な単元で防災に関する話題を活用できるので、本時に限らず継続的に防災の重要性を伝えていきたい。</p> <p>（6）今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか 十分とはいえないが、防災の意識付けはできたように思う。「天災は忘れた頃にやってくる」とならないように、継続的に教育活動を行いたい。</p>
成果と課題	<p>日本は、世界の中でも特に地震が多い地域にあることを理解したようである。また、将来発生が予想される南海トラフ地震の基礎的な情報を伝えることができた。</p> <p>地震への備えの大切さは理解しているように思うが、実際、具体的にどのような備えを各生徒が行うかは疑問が残るところである。</p>

## 理科（科学と人間生活）学習指導案

岡山県立真庭高等学校 生物生産科 1年1組

平成24年11月21日（水）第1校時 使用教室（1-1HR教室） 指導者 宇圓田 雅紀

単元 (題材)	第5章 宇宙や地球の科学 2節 身近な自然景観と自然災害 (地震・火山のメカニズム)
目標	日本列島の作りから日本に地震が多いことを学習し、地震のメカニズムについての理解を深める。また、日本は地震以外の自然災害も多いこと理解することによって防災に対する意識を認識させる。
指導 計画	① 自然景観のでき方・・・1時間 ② 日本の自然の特徴・・・1時間 ③ 日本列島をつくった作用・・・1時間 ④ 地震・火山のメカニズム・・・1時間（本時） ⑤ 地震災害・火山災害と防災・・・1時間
指導上 の立場	理科の基礎基本に対しての知識はある程度理解しているが、原子や宇宙などイメージが難しいものに対しては授業展開に工夫を要する。本時では日本の災害のことを学習するので実生活との関連の深さを意識させ学習をすすめる。

### 本 時 案

本時の 目標	日本は様々なプレートの上にてできていることを確認し地震のメカニズムについて確認する。 地震によって引き起こされる災害について考えさせ、自分が住んでいる地域で起こる災害を確認させる。		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
導入 (10分)	日本付近のプレートの分布に発問や板書によって確認する	教科書の図や板書によって日本付近のプレートについて説明する	日本列島の付近や下にはプレートが多いことを理解する
展開 (30分)	地震はプレートの動きによって発生することについて  地震の種類について  地震によって起こる災害について考えさせる	地震のメカニズムを板書と教科書等を使いイメージをさせる 地震の種類や場所による災害の違いについて考えさせ、答えさせる	地震の原因はプレートであることが理解できているか 海と山では災害が違うことを理解できている
まとめ (10分)	学校の周りで地震が起こったときの災害や対応について考えさせる	山で起こる災害を理解させる、また対応を答えさせる	地震には余震があることや自分の住んでいる場所での災害時の対応について理解している
参考 資料			

## 理科（科学と人間生活）学習指導報告書

岡山県立真庭高等学校 生物生産科 1年1組

報告書作成日：平成24年11月21日（水）

指導者 宇圓田 雅紀

生徒の様子 関心 意欲 態度	地震の種類による災害や近年に起きた大地震については高い関心をもって授業に参加していた。まとめの部分での本校周辺での災害の種類についてもよく理解できていた。近年の大地震については生徒に発問させてもよかった。
自己評価	<p>(1) 本時の目標が実現できていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本列島が4枚のプレートの近くにあることを理解し、地震の原因がプレートどうしで起きるものだけではないことを理解した。</li> <li>・山間部で起きる災害についてよく理解できていてし、自分の住んでいる地域で起こる災害についても理解できていた。</li> </ul> <p>(2) 生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習過程となっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私語は若干あったようにも感じたが、授業が進むにつれて内容に集中し発問に対して答えていた。</li> <li>・災害の種類についても生徒から色々意見が出ていた。</li> </ul> <p>(3) 問題解決の指導過程に沿った支援がなされていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書のみではなく、穴埋め式のプリントを配布し答えさせることによってプレートの位置について理解できるように努めた。</li> <li>・地震の原理については図を書くことによって理解できるようにした。</li> </ul> <p>(4) 教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地学分野であったので原理を理解し、これから起こるであろう災害についての対策や対処についての観点まで展開できた。</li> </ul> <p>(5) 「防災」に関する課題を把握した授業であったか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震について内容であり、日本全体で地震は起きることの多い国であること意識させて、今住んでいる地域での災害について理解し意識するきっかけになった。</li> </ul> <p>(6) 今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山と海で地震による災害の違いを理解し地域によって防災に対する備えの違いや対応について違いを考えるのに活かせる。</li> </ul>
成果と課題	<p>地震の原因が2種類あることを理解し、原因の違いや地域の違いによって起こる災害や復興の大変さを考えるきっかけになったと考える。阪神大震災からの20年の間に大きな地震があったことをしり自分たちの地域にも起こる可能性があることを考えるきっかけになったと感じた。</p> <p>災害についてよく理解していたので自分たちが住んでいる地域でのハザードマップなどにつなげていけるようにする。</p>



## 英語（オーラルコミュニケーションⅠ）学習指導案

岡山県立真庭高等学校久世校地 英語科 2年2組

平成24年7月11日（水） 第2校時 使用教室（2-2HR） 指導者 渡辺歩美

単元 (題材)	Lesson3 Are you okay? 元気?
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調についてのさまざまな表現、決まり文句を身につけ、実際に自らの体調を相手に伝えられるようにする。</li> <li>・助動詞 should について学び、アドバイスの仕方を理解させる。</li> <li>・本レッスンの重要表現を学習し、定着を図る。</li> </ul>
指導計画	第一次 KEY EXPRESSIONS (2時間) 第二次 LISTENING (1時間) COMMUNICATION 第三次 What should I do?・・・(本時)
指導上の立場	本校の生徒の多くは英語に対して苦手意識を持っており、特に語彙や文法事項があまり身につけていない。そのため、授業では英語に対する興味・関心を持たせるための工夫が必要だと考えた。本時では、防災に関する話題を取り上げ、今までとは少し違った視点から助動詞 should を取り扱い、更なる理解を深めると同時に防災に関する英単語を覚えさせようと考えた。

### 本 時 案

本時の目標	(ア) 防災に関する英単語の発音と意味を理解する。【知識・理解】 (イ) 防災に関するクイズに積極的に取り組んでいる。【関心・意欲・態度】 (ウ) 今回の授業を振り返り、新たに知ったことや興味深いと思ったことを書く。 【表現】		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れと目標を確認する。</li> <li>・防災に関するクイズを解く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れと目標を板書する。</li> <li>・三択クイズをさせる際、絶対に辞書を使わないというルールを約束させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勘で答えさせることで間違った解答を誘う。</li> <li>・評価・・・(イ)</li> </ul>
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズに取り上げた防災に関する英単語の意味を確認し、授業プリントに書く。</li> <li>・英単語の意味が確認できたら、フラッシュカードを用いて発音の練習をする。また、意味も覚える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の中でも今回は地震について取り上げ、もし学校で地震が起きたらどのように行動すればよいかを考えさせる。</li> <li>・英語が読めない生徒のために英語の上にカタカナで読み方を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズの選択肢の中に防災とは全く関係のない単語を使用し、生徒の関心を引く。 例) もしトイレで地震が起きたら?</li> <li>1. open the door</li> <li>2. do one's business</li> <li>3. hum a song</li> <li>・評価・・・(ア)</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の授業の感想を書く。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価・・・(ウ)</li> </ul>

# 英語（オーラルコミュニケーションⅠ）学習指導報告書

岡山県立真庭高等学校久世校地 英語科 2年2組

報告書作成日：平成24年7月13日（金）

指導者 渡辺歩美

生徒の様子 （関心 意欲 態度）	授業の最後に感想を書かせたが、「最初のクイズがおもしろかった」「楽しい授業だった」という感想が多く、英語に対して少しでも関心を持ってくれたのではないと思う。クイズや、こちらからの発問にも積極的に答えてくれ、生徒が主体的に授業に取り組んでいる様子が伝わってきた。
自己評価	<p>（1）本時の目標が実現できていたか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・フラッシュカードを使うことで、繰り返し英単語の発音練習や意味理解ができ、だいたいの生徒に目標（ア）の実現が見られた。</li><li>・ほとんどの生徒が防災に関するクイズに積極的に参加できていた。</li><li>・緊急事態時、日本では救急と警察の電話番号が異なるのに対して、アメリカでは警察・救急・消防全てにおいて同じ番号でダイヤルすればよいということに関心を持った生徒が多かった。</li></ul> <p>（2）生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習過程となっていたか</p> <p>クイズやフラッシュカードを用いることで講義形式ではなく、生徒主体の授業が普段の授業よりかは実現できたと思う。</p> <p>（3）問題解決の指導過程に沿った支援がなされていたか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・知らない単語がたくさん並ぶ授業プリントではあったが、敢えて辞書を使うことを禁止し、勘で答えさせるよう指示することで何とか自力で英語を読もうとしたり、意味を想像したりしていた。</li></ul> <p>（4）教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アメリカと日本とで緊急事態にかける電話番号の違いや利便性について触れることができた。</li><li>・フラッシュカードを用いてパタン・プラクティスを行った。</li></ul> <p>（5）「防災」に関する課題を把握した授業であったか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回は地震について扱ったが、地震が起きた時の場面設定として、「教室」だけではなく、「廊下」や「トイレ」など学校の中での身近な場面設定ができた。</li></ul> <p>（6）今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「もしトイレで地震が起きたら、まずドアを開けるということが分かった。」という感想もいくつかあり、今後の防災活動に生かせるのではないと思う。</li></ul>
成果と課題	フラッシュカードをもう少し段階的に時間をかけて扱いたかったが、今回は導入に時間がかかり過ぎてしまい、できなかった。中には英単語の発音と意味が理解しきれなかった生徒もいたように思う。今後はもう少し付加を易しくしたいと思う。感想の中に、「楽しい授業だった。」や、「アメリカでは警察・消防・救急への連絡が全て911で統一されていて、便利だと思った。」と書いてくれた生徒が多く、少しは英語に対して興味を持ってくれたように思う。

## 保健体育（保健）学習指導案

岡山県立真庭高等学校 生物生産科 2年1組

平成24年4月17日（火） 第1校時 使用教室（1年1組教室）指導者 戸田健太郎

単元 (題材)	3単元 社会生活と健康 健康被害の防止と環境対策
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境汚染の防止・改善への対策を考え、自分で説明できるようになる。</li> <li>・ 放射線についての基礎を知り、自身の考えを発表できるようにする。</li> <li>・ 岡山県には福島から100名ほどの生徒が転校して来ている現状を受け、仮に真庭高校に転校生が来たときの対応をどうすべきか考えることができるようにする。</li> </ul>
指 導 計 画	3単元 社会生活と健康（11時間） 1 大気汚染と健康（1時間） 2 水質汚染と健康（1時間） 3 土壌汚染と健康（1時間） 4 健康被害の防止と環境対策（2時間） 5 環境衛生活動のしくみと働き（1時間） 6 食品衛生活動のしくみと働き（1時間） 7 食品と環境の保健と私たち 8 働くことと健康（1時間） 9 労働災害・職業病と健康 10 健康的な職業生活（1時間）
指導上 の立場	1年次より個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。 内容は自分が生涯を通じて、社会人としてまた、家庭人として健康な生活を営むために必要かつ役立つ学習である。

## 本 時 案

本時の 目 標	ノート・ワークシートを適切に記述する（関心・意欲・態度） 仮に自分の周りに被災者の方がいる場合の行動や発言について考える（思考・判断） 放射線についての基礎知識を学習する（知識・理解）		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
導 入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の保健の進め方を確認する。</li> <li>・ 授業の流れと目標を確認する。</li> <li>・ 副教材の配布をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持参物の確認、教材の配布、授業の進め方の説明をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書ノートがあるか確認</li> </ul>
展 開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放射能・放射線とは何か理解する。</li> <li>・ 放射線の単位について理解する。</li> <li>・ 福島の現状について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副教材の図の利用をする。</li> <li>・ ベクレル、グレイ、シーベルトの単位の意味の違いを板書する。</li> <li>・ 放射線量や福島の方々の生活について説明する。（インターネット、新聞を用いて）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノートへの記述が適切にできているか確認</li> </ul>
ま と め ( 5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮に本校に転校生が来たらどのように接するか考える。</li> <li>・ 副教材の見方について注意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近くの人と相談させたりクラスの見聞を聞かせたりする。</li> <li>・ 偏った見方をしないよう注意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 積極的に発表できたか確認する。</li> </ul>
参 考 資 料	知っておきたい放射線のこと（放射線等に関する副読本作成委員会）		

## 保健体育（保健）学習指導報告書

岡山県立真庭高等学校 生物生産科 2年1組

報告書作成日：平成24年10月30日（火）

指導者 戸田 健太郎

生徒の様子 関心 意欲 態度	テレビや新聞の報道で生徒はたくさんの情報や知識を持っている。しかし正確な情報や福島の実況について正しく理解できている生徒は少なく、結局個人の興味・関心だけに重点をおいた知識や考え方に偏っていた。本時間では、正しい情報と現状を、副読本を用いて伝え、放射線についての考え方が現地の方々と政府とでは違うことや、この副読本の情報だけに目を向ける危険性について説明した。生徒は真剣に意見を発表してくれた。
自己評価	<p>(1) 本時の目標が実現できていたか                  個人の意見を発表させる時間を作ったが、全員の意見を拾ってやることができなかった。発表者の声を聞くと、福島の方々の考え方に対する配慮や生徒自身ができることなどの声が聞こえた。</p> <p>(2) 生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習過程となっていたか                  副教材を用いてどちらかと言えば教員主導の授業であった。副教材の中身の説明に時間を要したので、落ち着いて考える時間をもう少し取ってやれば良かった。</p> <p>(3) 問題解決の指導過程に沿った支援がなされていたか                  グループ討議などを用いればもっと知識を深めることができたのでは無いかと反省する。</p> <p>(4) 教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか                  保健授業では、健康への影響について副教材の内容に書かれている図を使って具体的に説明できた。概ね生かせたのではないかと思う。</p> <p>(5) 「防災」に関する課題を把握した授業であったか                  放射線に関する基本的な知識の理解と、福島の方々の現状について、支援についての内容が中心であった。「防災」については重きを置けなかった。</p> <p>(6) 今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか                  今後の学校生活だけではなく、日常や社会に出た時に被災された方と一緒にいるかもしれない。少しでも今回の授業が生かされてくれれば幸いである。</p>
成果と課題	放射線についての考え方や見方は、被害にあった被災地の方と、政府を含めたそれ以外の地域の方とでは違うということを理解することができた。授業時間が1時間と短いなかでの説明なためやや生徒の意見を拾いきれなかったのが課題である。グループ討議を設け、発表までの時間を取れば幅広い学習の成果があったのではないかと考える。

## 家庭科（課題研究）学習指導案

岡山県立久世高等学校 家政科 3年3組 課題研究・地域連携選択者7名  
平成24年6月21日（木） 第2、3校時 使用教室（調理室）指導者 教諭 池田益己

単元 (題材)	課題研究（地域連携） 高齢者とのふれあい		
目標	家庭科に関する分野で課題を設定し、学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てることを目標としている。		
指導計画	ひとり暮らしの高齢者宅訪問とふれあい体験・・・6時間（本時3、4時間目） 1. 事前学習・・・2時間 2. 高齢者宅訪問（ふれあい体験と防災アンケート）・・・2時間（本時） 3. まとめ・・・2時間		
指導上の立場	「課題研究」で高齢者を対象にした防災対策グッズを作成するために、高齢者単独世帯を訪問し、聞き取り調査などを行うことによって、高齢者と「ふれあい」ながら、高齢者の生活や防災意識などを理解させることをねらいとした。		
<b>本 時 案</b>			
本時の目標	高齢者とのふれあいの大切さを、体験を通して理解させる【関心・意欲・態度】 防災に対する基本的な知識を身につけさせる。【知識・理解】		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の目標</li> <li>・ 準備の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習の目標について知らせる。活動はA班、B班のグループ学習であることを確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校外活動の事前指導の徹底を図る。</li> <li>・ グループごとの準備の確認と対象者宅への交通ルートを再確認する。</li> </ul>
展開 (80分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者の様子</li> <li>・ 高齢者の生活と防災意識</li> <li>・ 高齢者とのふれあい体験活動</li> <li>・ 防災アンケート聞き取り調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の対象者の日常生活のようすを理解させる。・ 高齢者の防災意識について理解させる</li> <li>・ 活動は次の点に留意させる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①相手の立場になって行動する。</li> <li>②会話を楽しむことができるように努力する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者の様子、実態の説明は専門家に依頼する。（社会福祉協議会、地区民生委員）</li> <li>・ 高齢者の心理面に十分配慮させる。</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動記録用紙の項目に従いまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 反省や感想は、活動前後の気持ちの変化についても書かせる。</li> </ul>
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 真庭市社会福祉協議会、民生委員との事前打ち合わせを十分に行い、対象者宅への訪問時は同行していただいた。</li> <li>・ 服装、持ち物、について事前指導をする。</li> <li>・ 活動に持参した焼き菓子は前日に家政科の生徒全員で手作りした。</li> </ul>		

## 家庭科（課題研究）学習指導報告書

岡山県立久世高等学校 家政科 3年3組 課題研究・地域連携選択者7名

報告書作成日：平成24年6月21日（木）

指導者 池田益己

生徒の様子 （関心 意欲 態度）	防災の基礎については、1年「家庭基礎」、2年「家庭看護・福祉」の授業で学習して、本時の体験活動に臨んだ。今回、久世高校が第一避難場所に指定されている高齢者単独世帯6名を訪問し、活動することによって、高齢者とのかかわり方や高齢者の防災意識について知ることができた。
自己評価	<p>(1) 本時の目標が実現できていたか 高齢者とのふれあい体験は出来たが、アンケートの質問内容がやや難解で十分な聞き取り調査ができなかった。</p> <p>(2) 生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習課程となっていたか 「ふれあい体験」を主体とした学習であり、高齢者宅を訪問し、聞き取り調査なども行う学習であったので意欲的に取り組めた。</p> <p>(3) 問題解決の指導課程に沿った支援がなされていたか 学習の流れは、本時の活動で得たことを次時からの防災グッズ作成に発展させる形をとり、高齢者の防災意識について考えさせるように考慮した。</p> <p>(4) 教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか 「課題研究」地域連携では、防災に関する問題について、自ら問題を見つけ、問題解決を図ることを目標としている。実際に高齢者宅を訪問し、高齢者とふれあい、防災についての話を聞くことができ、貴重な体験ができた。防災ずきん、調理カード、防災ポスターを作成する上でのヒントもいただくことができた。</p> <p>(5) 「防災」に関する課題を把握した授業であったか 高齢者の防災意識について知ることができた。</p> <p>(6) 今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか 防災グッズを作成し、2学期には再び訪問したい。</p>
成果と課題	<p>・高齢者の生活については1年「家庭基礎」2年「家庭看護・福祉」の授業で学習している。その知識をふまえて今回「ふれあい体験」の活動を経験することができた。</p> <p>・本校生徒対象に実施した防災アンケートから項目を抽出してアンケート調査を実施した。内容が難解で理解しにくい質問もあり、答えにくい様子が見られた。アンケート内容についても、社会福祉協議会の方にも相談すべきであった。</p>

## 芸術（書道Ⅰ）学習指導案

岡山県立真庭高等学校 食品科学科 1年2組 書道選択者

平成24年7月17日（火） 第1・2校時 使用教室（書道教室） 指導者 藤原工子

単元 (題材)	漢字仮名交じりの書 防災標語を考えて、啓発作品を創作しよう。
目標	「こ・ち・ぼ・う」の頭文字を利用して標語を考え、今まで学習した表現方法を活かして工夫した作品制作をする。
指導 計画	漢字仮名交じりの書 第一次 入門編～相田みつをの表現～（2時間） 第二次 基礎編～3つの技を習得～（2時間） 第三次 実践編～こちら高校市民課防災係～（3時間） 1時 標語を考える 2時 草稿作品をつくる 3時 創作作品として表現する・・・本時
指導上 の立場	1学期の主な学習は漢字の書の古典臨書からさまざまな表現（特徴）を学ぶことであった。その学んだ特徴を自らの言葉で創作する際にも活かし、標語の内容と「強く主張する」といった、言葉と表現の一致ができるように配慮したい。

## 本 時 案

本時の 目標	今まで学習した5つの表現から1つを選んで作品に活かし、漢字仮名交じりの書としてまとめることができる。		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
ワーク 学習 (5分)	くらしに生かすペン習字入門 P12をする。	今回の範囲での留意点を説明する。	ワークの書き込み 【関心・意欲・態度】
導入 (5分)	返却されたプリントのアドバイス・表現のポイントを聞く。	前回のプリントを返却し、ポイントを挙げる。	草稿プリント記入 【芸術的な感受や表現の工夫】
展開 (30分)	特徴を意識しながら表現の練習をする。  文字の大小・線の太細・潤濁の変化も取り入れて作品のレベルを高める。  落款の位置も考えて構成する。	作品例を提示し、わかりやすく説明する。  半紙2枚⇒本番用紙へ構成を意識させる。	主体的に取り組んでいるか。 【関心・意欲・態度】  作品評価 【創造的な表現の技能】
まとめ (10分)	作品にすることは、自分が外部へ発信することになり。意識の向上が大切になることを知る。	黒板に完成作品を掲示し、作者の意図や、良いところを褒めてやり、完成した満足感を持たせてやる。	
参 考 資 料			

# 芸術（書道Ⅰ）学習指導報告書

岡山県立真庭高等学校 食品科学科 1年2組 書道選択者

報告書作成日：平成24年8月1日（水）

指導者 藤原工子



## 農業（農業経営）学習指導案

岡山県立久世高等学校 生物生産科 3年1組

平成24年6月14日（木） 第1校時 使用教室（3－1HR） 指導者 佐々木正剛

単元 (題材)	第1章 農業の動向と農業経営 2-1 農業・農村の機能と役割
目標	農業・農村の多面的機能について理解を深め、我が国における農業・農村に期待されている役割を考えることで、これからの農業経営をマクロな視点で捉えることができる。
指導計画	<p>農業の動向と農業経営</p> <p>第一次 我が国と世界の農業（2時間）</p> <p>第二次 今後の農業経営と食料生産の方向（3時間）</p> <p>1時 農業・農村の機能と役割・・・本時</p> <p>2時 農業と環境の保全</p> <p>3時 消費の変化と農業</p> <p>4時 持続的農業の進展と有機農産物</p> <p>5時 農業経営の変化</p>
指導上の立場	農業を取り巻く社会情勢や環境に興味・関心が希薄であるため、授業展開には工夫を要する。また、これまでは栽培に関する学習が中心であったため、農業における社会科学の科目ということを踏まえつつ、マクロな視点で農業経営を捉えさせるよう十分な配慮が必要である。

## 本 時 案

本時の目標	農業・農村の多面的機能について理解している。【知識・理解】 有形・無形の価値が生み出されることの判断ができる。【思考・判断】		
	学習活動・内容	教師の指導・支援	留意事項・評価基準
導入 (10分)	教科書・ノートの有無を確認し、前時の内容を確認する。 農業にはどのような役割があるかを考える。	前時の振り返りと本時の授業内容の説明 農業・農村の役割について発問する。	国土保全の観点から、防災の役割に気づかせる。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料の供給について</li> <li>・医薬品等の原料について</li> <li>・生産活動と結びついていること(結合生産)について</li> <li>・利益を無料で享受できること(公共財)について</li> <li>・農産物の価格に価値を反映できないこと(外部経済性)について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食料供給や施策について説明する。</li> <li>・農業と直接関連しないような分野と密接な関係があることをイメージさせる。</li> <li>・ワークシートや資料を用いて農業・農村の多面的機能について考えさせ、発問する。</li> </ul>	<p>農業・農村には様々な機能があることについてわかる。【知識・理解】</p> <p>農業・農村から享受している機能について生活に関係していることを認識している。【思考・判断】</p>
まとめ (10分)	農業・農村には多くの役割や機能があり、多くの価値が生み出されていることを振り返り、理解する。	防災(国土保全)に関して非常にウェートの高い機能が備わっていることを説明する。	ノートに本時の学習について感想を書き、多面的機能を再認識している。
参 考 資 料	農業の多面的機能の貨幣評価の比較対照表		

## 農業（農業経営）学習指導報告書

岡山県立久世高等学校 生物生産科 3年1組

報告書作成日：平成24年6月15日（木）

指導者 佐々木正剛

生徒の様子 （関 心 意 欲 態 度）	生産の三要素（土地、労働力、資本）について事前に学習しており、土地の役割の一つとして本時の学習に臨んだ。そのため、農業・農村の役割は主に食料供給であるとの意見が大勢を占めたが、何人かは他の機能があるのではとの意見が出た。また、前半にプリントを用い、後半にノートを活用した授業展開であったため、内容を整理しやすかったように思われる。さらに、津波による田畑の塩害についての言及があるなど活発な意見がでた。
自己評価	<p>（1）本時の目標が実現できていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料供給以外についても農業・農村の機能があることを理解した。</li> <li>・公共財や外部経済性など、有形・無形の価値が生み出されていることを考えることができた。</li> </ul> <p>（2）生徒が主体的に学習に取り組むことができる学習過程となっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを用いたため、整理し、発問しやすい環境を作った。</li> <li>・貨幣評価という尺度に触れ、リアリティを持って多面的機能にどのようなものがあるかを主体的に考える時間を設けた。</li> </ul> <p>（3）問題解決の指導過程に沿った支援がなされていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての生徒が授業中に発問したり意見を言えたりする場を設け、多面的機能にどのようなものがあり、さらに、多面的機能の特徴に関して考える時間を設定して、フォローできるよう努めた。</li> </ul> <p>（4）教科（科目）の特性を生かした授業になっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業科の社会科学の視点から「農業経営」の授業を展開し、多面的機能の一つに「国土保全（防災）」の観点から、生徒の興味・関心を喚起することができたように思われる。</li> </ul> <p>（5）「防災」に関する課題を把握した授業であったか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂崩壊防止機能や洪水防止機能の役割を理解し、耕作放棄地の増加が及ぼす負の側面をあぶり出すことができた。</li> </ul> <p>（6）今後の教育活動や防災活動に生かせる内容になっていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地や土壌・土質の保全等から「防災」をキーワードとして展開できると思われる。</li> </ul>
成果と課題	<p>生徒一人ひとりが興味を持ち、さらに塩害の被害やその対策の話までに発展したことは大きな収穫であった。国土保全・環境保全の観点からも農業教育からもアプローチ反応であると思われる。</p> <p>防災に関して構えた授業展開ではなく、キーワード的に扱うことにより、様々な切り口で取り扱うことが可能ではないかと推察される。また、施設園芸の分野では具体的事象を提示しつつ、生徒の興味・関心を喚起できるものと推察される。</p>